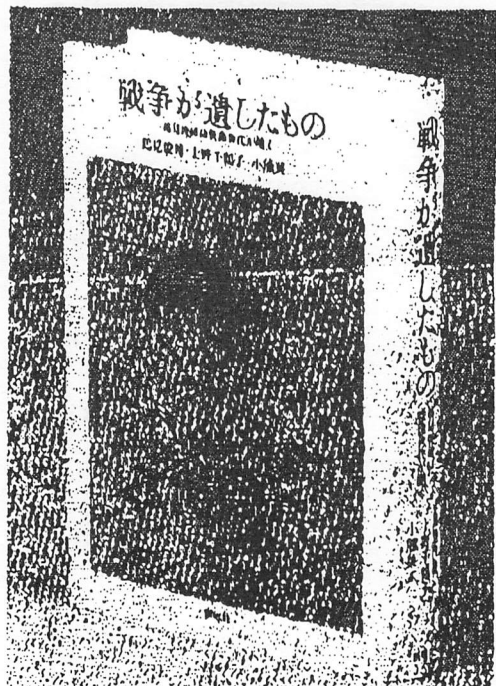


武田 徹氏



ク
ン
フ
ィ
ク
シ
ョ
ン

語り通じ事実に肉薄

この二冊のセレクトに意度があるべきだとかねてよろ。

外な印象を持つかもしれないが、そこで文芸的ノンフィクションとは別に分量を稼ぐ(あるいは)方法としてではなく、語り

そこで対談形式は、安易に分量を稼ぐ(あるいは)方法としてではなく、語り

「戦争が遺したもの」は、
「抵抗者たち」は講談社

い。しかし筆者は日本のノックアウトのカタゴリーで優れた作品

なか含蓄や、当事者の思想、

新堀社・二九四〇円

しての完成度の高さで測らあえてそれらを推そうと思

心憎を物語る「細部」を、

「抵抗者たち」は講談社

れがちな傾向に対して疑問

た。たとえば六〇年安保反対

類型的解釈に回収される前

・一八九〇円

戦争が遺したもの

運動や「ベ平連」を率いたに記録するべく積極的に採
哲学者・鶴見俊輔への上野用されている。

千鶴子と小熊英二のインタビュである「戦争が遺し書記長・増山太助ら、九人たもの」が、聞き手が大学へのインタビュによってに籍を置く研究者だという米田綱路が編んだ「抵抗者ことだけで歴史学、思想史たち」も同じ観点から推薦学の領域に分類されがちなできる。

この二冊は口述史調査りを通じて事実に肉薄した(オーラル・ヒストリー)ノンフィクション作品として、文学的想像力とは全く異なる方法で、戦後日本の人間像を確かに浮かび上がらせた。こうした作品をも評価できる環境が整ってこそノンフィクシ

「戦争が遺したもの」は、
「抵抗者たち」は講談社

心憎を物語る「細部」を、

れがちな傾向に対して疑問

た。たとえば六〇年安保反対

類型的解釈に回収される前

・一八九〇円